鹿児島県立蒲生高等学校　進路指導部

楠鏡通信

平成 29 年度
～9月号～

◆　就職試験解禁　◆

９月１６日より平成２９年度の高校生の就職試験が解禁になりました。特に**県外企業の求人状況が好調**で，ここ数年求人倍率が高くなっています。（求人倍率が高い＝『働く人を企業が欲しがっている』と考えて良い）

一方，本校の状況を見ると県内の企業を希望する傾向が強く，希望先として製造・販売業が昨年度同様高い数値を示しました。

１・２年生の就職希望者は，**まずは遅刻・欠席・早退をなくしましょう。**実際，会社訪問の際に「高校時代に欠席が少ない生徒が本社では長く働けると思います」と言われています。また，出欠状況だけでなく学業面においても結果を残せるように頑張りましょう。皆さんの欠席日数や学年末の成績は進学や就職先に調査書として提出するようになっているため，**選考の重要資料となります**。欠席の多い生徒や学業不振の生徒は，進学・就職試験で受験以前にそれだけで不利になるケースも目立ちますので，今から改善を図りましょう。

また，就職希望の生徒が企業を選ぶ際には，自分の適性をよく理解し，受験する分野で**どういう資質を持った人物が望まれるのかを知っておきましょう**。いくら自分がその分野での仕事を望んでも，適性が高くないと判断されたら受験の際に厳しい結果が待っています。「好きなこと・やりたいこと」で進路選択をするのも一つの方法ですが，「自分の資質や能力で将来貢献できる可能性があること」も考慮して職種を選定しましょう。**将来の自分が働くことをイメージして**進路選択に臨んでください。

◆　あなたならどう答えますか？　◆

以下に近年の**就職試験で実際にあった質問**をまとめておきますので，参考にしてください。詳しく知りたい人は，年度初めに配布した進路の手引きを見てみましょう。

学校生活にかかわること

「学校生活について（頑張ったこと，印象に残っていること）」

「クラスや部活動でどんな役員をしたか」　「好きな教科，嫌いな教科」

「部活動について」　「資格について」　など

受験の動機

「志望動機」　など

社会人としての心構え

「どのような社員になりたいか」　など

受験企業

「企業について知っていること」　「社長，店長の氏名」　など

自分自身に関すること

「ボランティア経験について」　「自分の性格」　「１０年後の自分」
「将来の目標」　「長所・短所」　「自己ＰＲ」　など

その他

「地元のこと（地元の企業や地元の地域の特徴について）」　など

上記の質問の中には１・２年生でも答えられるものもあります。**自分だったらどう答えるか**を考えてクラスの中で実際に友達とお互いに面接の練習をやってみてください。

なお，例年本校で見られる傾向ですが，「自己ＰＲが書けない」「高校生活で頑張ってきたことが書けない」といった悩みを聞きます。面接のために高校生活があるわけではありませんが，３年過ごした中で何も言えない生活を送ることがどんなにもったいないことか，を考えてみましょう。**実り多い高校生活を自らの手で作り上げてください**。

◆　どうありたいと「考えて」みる　◆

人は何かしら悩みを抱えて生きています。また，思うがままにならないのも当たり前。であれば，悩まないように生きるよりも，**悩みとどう向き合っていくか**と考えながら生きていく必要があります。

ただし，悩みの中には変えられないものと変えられるものとがあります。悩んでもどうしようもないものもあるでしょうが，例えば，自分が「一生懸命勉強しているけれども思うように成績が伸びない生徒」であると仮定して考えてみましょう。どんな悩みを持ちそうですか？

恐らく，「何で勉強しているのに成績が上がらないのだろう」と悩むでしょう。もちろんその悩みを抱く可能性は大いにあります。ですが，「悩む」ではなく「考えてみる」というように，行動を変えてみましょう。今回の場合，「何故成績が上がらないか」と悩むのではなく**「どのような勉強方法であれば成績が上がるか」**と考えてみるということ。「自分の力にするために繰り返し問題を解こう」とか「質問を分かるまで繰り返そう」など，前向きな考え方が出てきそうでは？悩んでも対処法が見えてこないのであれば，**前への進み方が見えてくるような考え方を持つ**ということです。

最近，学業面や進路面で進路指導室に相談に来てくれる１・２年生が増えてきているように思います。例えば「計算ができなくて悩んでいる」「進路が決められなくて悩んでいる」といった相談です。同じような悩みを抱える生徒も多いと思います。恐らく，「計算ができるようになりたい」「進路を決めたい」という気持ちから出てくる相談でしょう。

ただし，**一度に全てが解決すると考えない**こと。「計算が全部わからない」ということはほぼ無く，できるものは何かしらあるはず。その「できるもの」に近い内容の「自分ができないと考えているもの」に手を出してみよう。

手元にあるものからコツコツと，が学力向上の鉄則です。